

資料

兵庫県三田市における両生類の分布

谷本卓弥¹⁾・江間 薫²⁾

Distribution of Amphibians in Sanda city, Hyogo Prefecture, Western Japan

Takuya TANIMOTO¹⁾, Kaoru EMA²⁾

要旨

三田市における両生類の生息状況を把握するために、2004年から2010年にかけてオオサンショウウオを除く両生類の分布調査を行った。三田市内22地域を調査した結果、有尾目2種、無尾目12種の合計14種を確認した。トノサマガエルは調査地全域で生息を確認した。ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルは広範囲に生息していたが、一部の小河川や水田では確認しなかった。カスミサンショウウオ、ウシガエル、ヌマガエルは中南部ではみられたが、北部では確認しなかった。ツチガエル、タゴガエルは中北部の小河川の付近に生息していた。ニホンアカガエルは東部以外の地域で確認し、多くが水田環境に生息していた。モリアオガエルは南西部を除く広い範囲で生息していた。アカハライモリは北部や山間部で確認した。ヤマアカガエル、カジカガエル、ニホンヒキガエルが確認できた場所は限定的であった。

キーワード：両生類、カエル、分布、三田市、生息状況

はじめに

現在、日本の両生類は有尾目22種と無尾目38（と5亜種）の計60種（と5亜種）が報告されている（松井、2005）。兵庫県下では6種の有尾目と外来種を除く13種の無尾目の計19種が確認されているが、そのうち16種が絶滅のおそれのある種に指定されている（兵庫県、2009）。両生類減少の要因は、ウェットランドの減少、水田への農薬散布、ため池への外来種の持ち込みなど水辺環境の変化が大きく影響していると考えられる（長谷川、1999；太田、2001；松井、2002）。両生類は人里近くの小規模で不安定な水域を繁殖に利用する種が多く、移動性も乏しい（兵庫県、2009）。そのため、水辺環境の変化の影響を直接受けやすく、今後もさらに希少種数が増加してゆく可能性がある。両生類の保護と生息環境の保全を図

るには、生息の有無と生息地を把握し、分布情報の記録を蓄積することが非常に重要である。

三田市の両生類については、兵庫県の両生類の生息情報を記録した湯浅（2000）、三田市のカエル類の生息状況を観察した林（2003）、兵庫県のオオサンショウウオの分布情報をまとめた柄本（2007）の研究がある。これらの研究により、三田市には3種の有尾目と12種の無尾目の生息と、その分布状況について明らかになりつつある。しかし、調査範囲が広いため三田市の分布情報が少ない、観察期間が短い、調査対象が1種のみである、などいずれも限定的であり、三田市の両生類の詳細な生息状況については不十分な点が多い。そこで、三田市における両生類の生息状況をより詳細に把握するために、三田市全域を網羅できる調査地を選定し、両生類の活動期間中、季節を変えて同一地域を複数回訪れて野外調査を

1) 兵庫県立伊丹北高校 〒664-0006 兵庫県伊丹市鴻池7丁目2-1 Hyogo Prefectural ITAMI-KITA High School.; Kounoike 7-2-1, Itami, Hyougo 664-0006, Japan
2) 近畿中国森林管理局広島森林管理署 〒730-0822 広島県広島市中区吉島東3丁目2-51 Hiroshima District Forest Office, Kinki-Chugoku Regional Forest Office; Yoshizimahigashi 3-2-51, Naka-ku, Hiroshima 730-0822, Japan

行った。調査地の選定には、「三田市生態系レッドデータブック（三田市生態系レッドデータブック策定委員会、2003）」が定めた重要な自然環境を対象とすることで、三田市の自然環境のモニタリングを兼ねることができると考えている。

オオサンショウウオについては、柄本(2007)、兵庫県自然保護協会によって詳細な調査がなされているため本調査では除外した。

調査地の概要

兵庫県南東部に位置する三田市は、神戸市の市街地より六甲山系を越えて北へ約25km、大阪市より北西へ約35kmの距離にあり、東西約19km、南北約17km、総面積は210.22km²である。市域の北部と東部に標高500~700mの主要山岳があり、南西部はおおむね標高300m以下の丘陵台地となっている（三田市都市整備部都市計画課：付記）。武庫川が市の北西から南東にかけて流れ、波豆川、羽束川、黒川、青野川などの支流がある。南西部にある市街地には人口約114,000人の75%が集中し、その他の地域では田畠と山林が広がる農村地域である。年平均気温は14.2°C、年降水量は1186.5mmである（三田市、2010）。

調査対象地は、三田市の「三田市生態系レッドデータブック（三田市生態系レッドデータブック策定委員会、

2003）」において重要な生態系として指定されている137ヶ所のうち、水田、ため池、湿原、河川など両生類の生息場所が立地している22ヶ所を選定した（図1）。

調査方法

2004年から2010年にかけて調査対象地の中から毎年3~5ヶ所を選定し、生息調査を行った（図1）。カスミサンショウウオ、アカガエル類は早春に産卵を開始するため、2月中旬から調査を開始し、冬眠に入る11月まで同一地域あたり1~10回の調査を行った。また、成体だけでなく卵塊、幼生、幼体も調査対象とした。

対象地域のすべての河川やため池、湿地とそれらに隣接する水田や水路を調査し、目視による種の確認と写真撮影を行った。特にアカガエル類は可能な限りタモ網で採集し、背面の背側線、側面と腹面の模様、前足指の形状を確認した上で種の同定を行った。また、生体の視認だけでなく繁殖期の鳴き声も確実に同定できるものは記録し、捕獲個体は同定後、放免した。観察記録は、個体数の多少にかかわらず、対象地域内で種が生息していることを確認した場合は1件の記録とした。ただし、一つの地域内で調査日、生息場所、生活ステージが異なれば、それを1件として記録した。個体数、卵塊数などの生息量は、量が多いあるいは非常に少ない、など特記する内容があればその数を記録した。

ゼンリン住宅地図「三田市」1/2000~1/8000に生息位置を誤差約10m以内で記録したのち、室内においてデジタル地図（昭文社スーパーマップルデジタル）から日本測地系（Tokyo）による緯度経度を十進経緯度で誤差約20mの精度で取得し、分布図を作成した。

種名の配列、学名、和名は松井（2005）に従った。

結果および考察

兵庫県三田市内において2004年3月から2010年5月にかけて両生類の生息調査を行った結果、三田市内22地域から614件の観察記録および各種合計162点の生息地域を記録し、有尾目2種、無尾目12種の合計14種を確認した。最も観察記録および生息地域が多かった種は、162件、22地域で確認したトノサマガエルであった。最も少なかった種は、観察記録4件、2地域のカジカガエルであった。観察記録から得た種ごとの分布を図2に、生息情報を表1に示した。

分布状況は、トノサマガエルはすべての調査地域に出現していた。ニホンアマガエルは19地域で確認し、ほぼ調査地全域に生息していたが、一部の小河川や北部の水田では確認しなかった。シュレーグルアオガエルは19

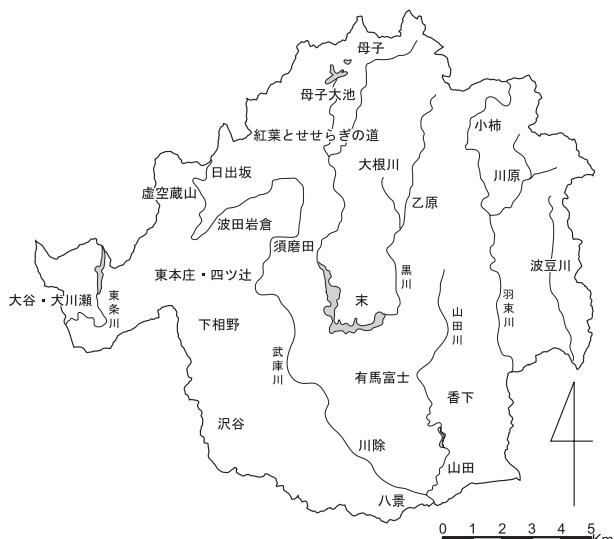


図1 調査地

- 有馬富士、母子、波田岩倉（2004年度調査）
- 須磨田、川原、香下、山田（2005年度調査）
- 日出坂、虚空藏山、母子大池、紅葉とせせらぎの道（2006年度調査）
- 乙原、大根川、末（2007年度調査）
- 波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、小柿（2008年度調査）
- 下相野、八景、川除（2009年度調査）
- 小柿（2010年度補足調査）

地域で生息を確認したが、一部の小河川や南部の市街地に近い水田では確認しなかった。カスミサンショウウオ、ウシガエル、ヌマガエルは中部から南部にかけてみられたが、北部では生息を確認しなかった。ツチガエル、タゴガエルは中部から北部の小河川付近に生息していた。ニホンアカガエルは東部以外の地域で確認し、多くが水田および水田に隣接する用水路に生息していた。モリア

オガエルは南西部を除く広い範囲で生息していた。アカハライモリは北部や山間部で確認した。ヤマアカガエル、カジカガエル、ニホンヒキガエルが確認できた場所は限定的であった。

分布図および生息情報に基づいて、三田市における両生類の生息状況を以下にまとめた。

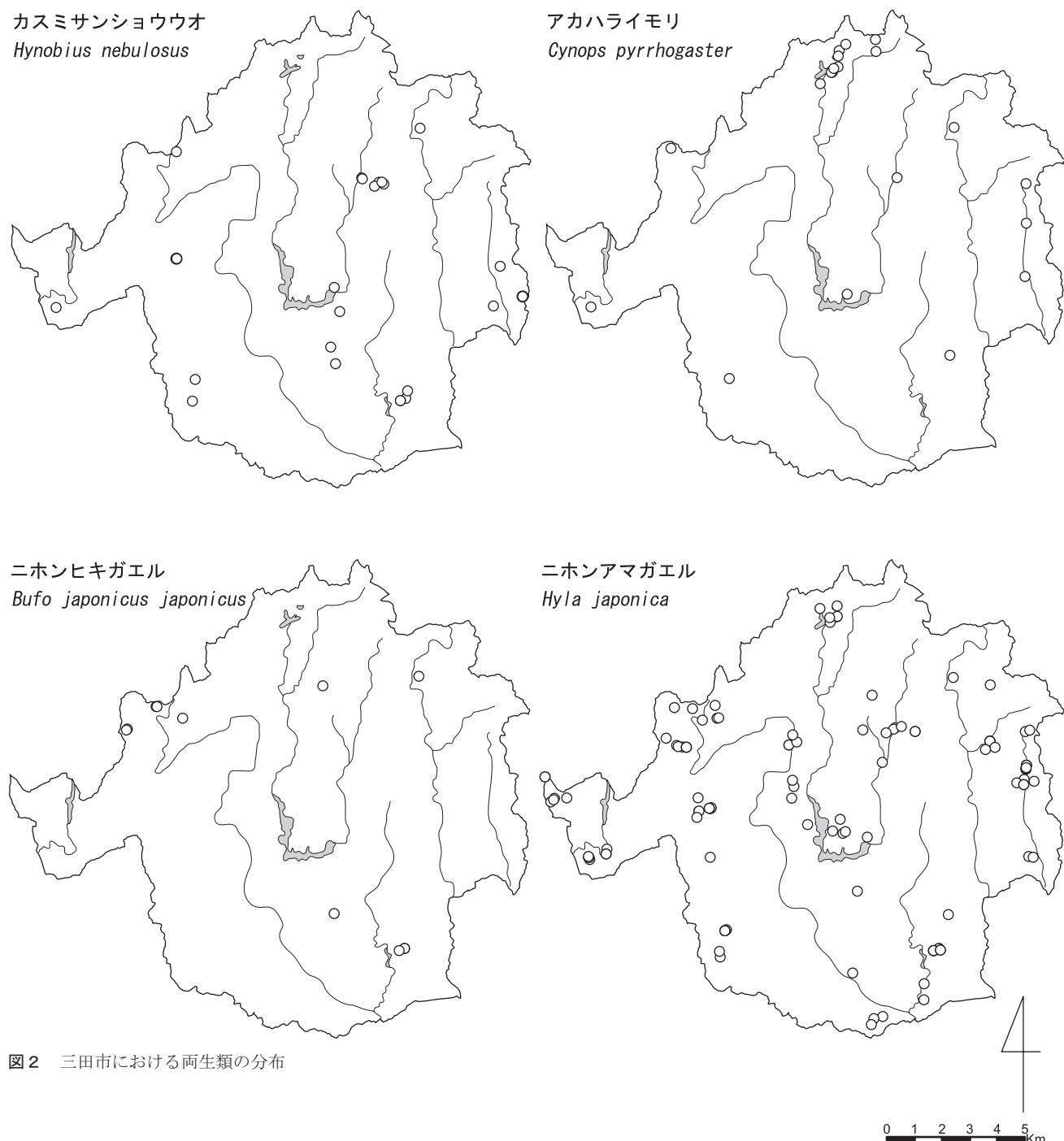
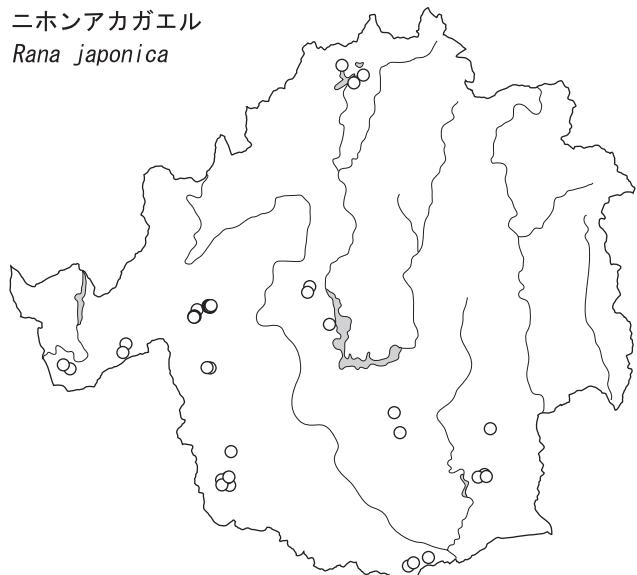
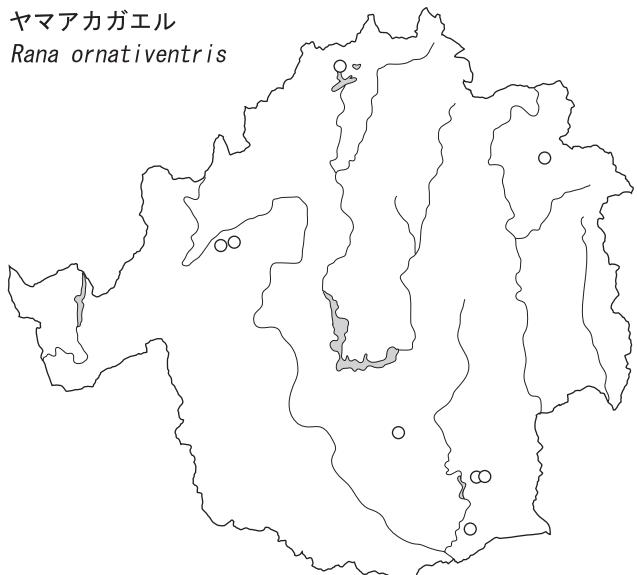


図2 三田市における両生類の分布

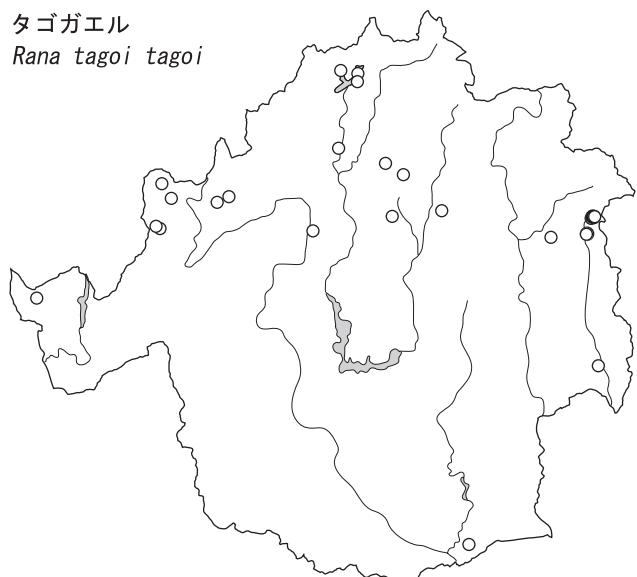
ニホンアカガエル
Rana japonica



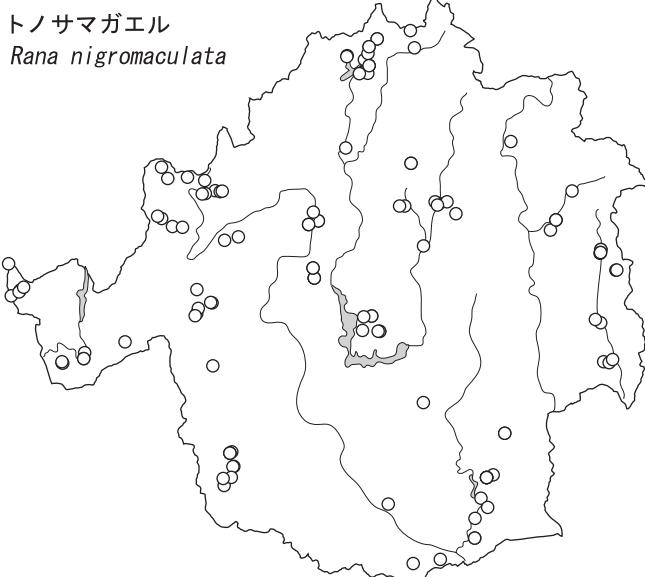
ヤマアカガエル
Rana ornativentris



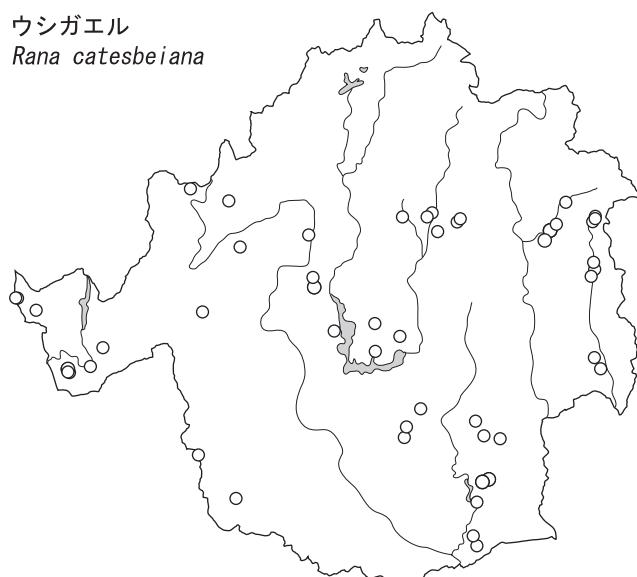
タゴガエル
Rana tagoi tagoi



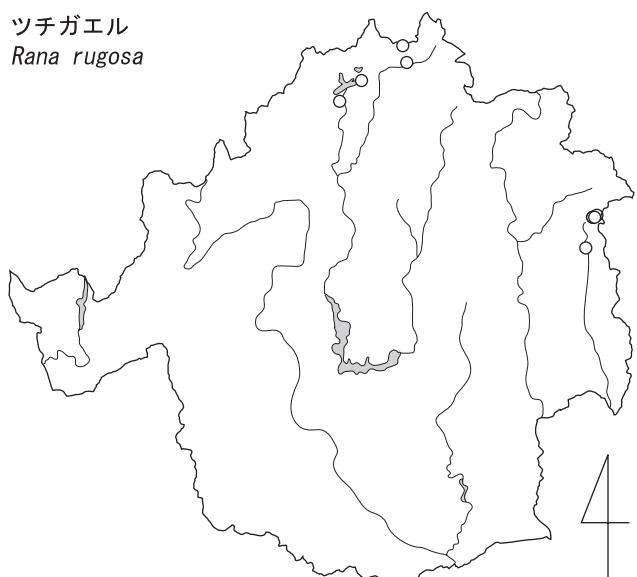
トノサマガエル
Rana nigromaculata



ウシガエル
Rana catesbeiana

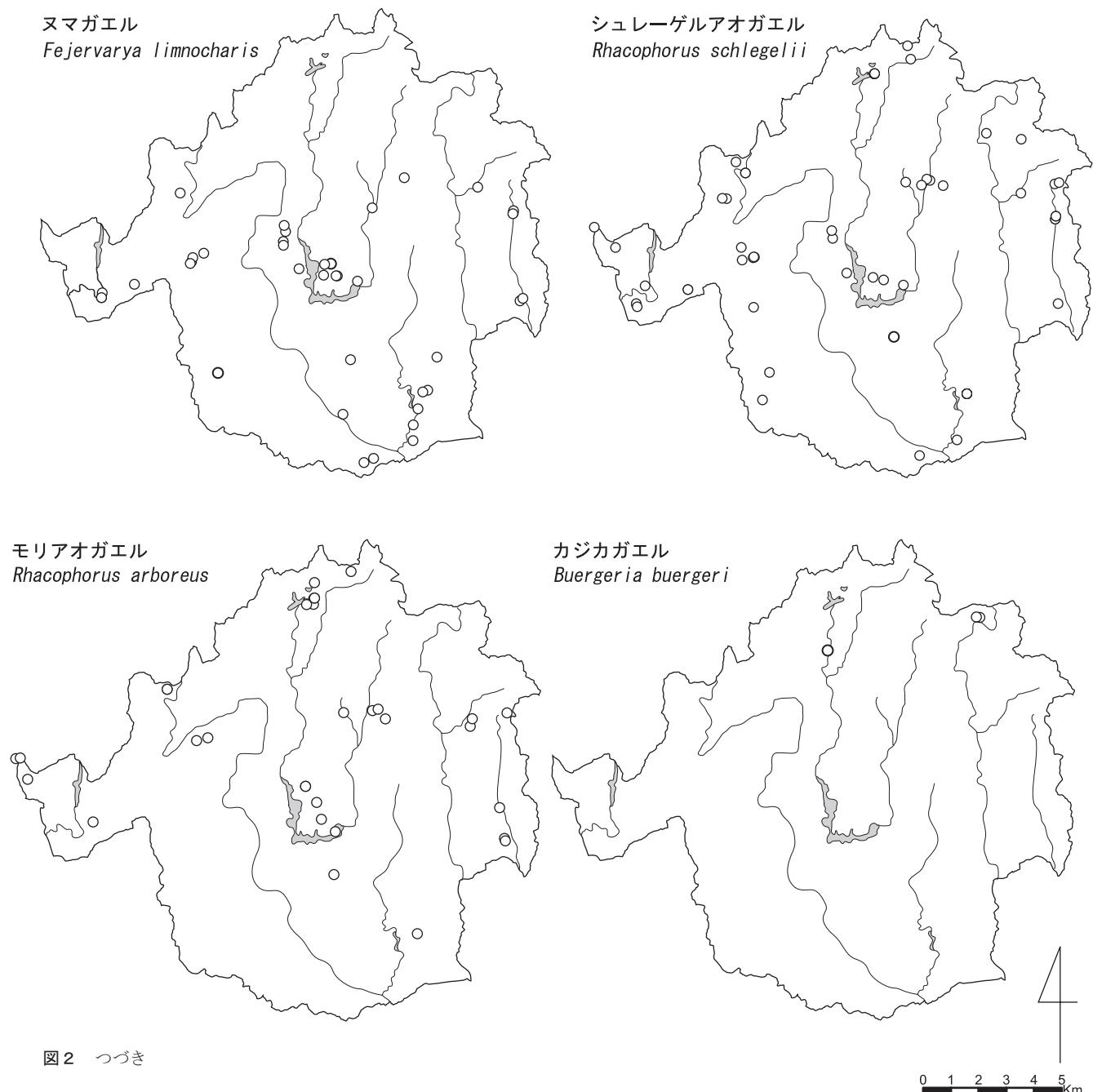


ツチガエル
Rana rugosa



0 1 2 3 4 5 Km

図2 つづき



Urodela 有尾目

Hynobiidae サンショウウオ科

Hynobius nebulosus カスミサンショウウオ

26件の観察を記録し、有馬富士、香下、日出坂、乙原、末、波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、小柿の10地域に生息していた。休耕田を含む水田や用水路、ため池などで確認し、その多くは水深が5～10cm程度の水辺に生息していた。2～6月に成体や幼生、卵塊の各生活ステージを観察し、卵塊は3～4月に水田や用水路などで確認した。

ノート：本調査により本種が北部を除く全域に生息していることを確認した。

Salamandridae イモリ科

Cynops pyrrhogaster アカハライモリ

21件の観察記録により、母子、香下、虚空蔵山、母子大池、紅葉とせせらぎの道、乙原、末、波豆川、大谷・大川瀬、沢谷、小柿の10地域に生息していることを確認した。3～9月に水深が約10～50cm程度のため池、用水路、渓流などで確認した。

ノート：湯浅（2000）は、母子、下青野高橋において本種を記録しているが、本調査において北中部だけでなく、東部や南部、西部にも生息していることが明らかとなった。

Anura 無尾目

Bufoidae ヒキガエル科

Bufo japonicus japonicus ニホンヒキガエル

10件の観察を記録し、有馬富士、香下、虚空蔵山、大根川、小柿の6地域で本種を確認した。成体を確認できたのは日出坂地域の渓流のみであった。卵塊は3月下旬、幼生は3月下旬～5月に観察され、水深15～30cm程度のため池や用水路、湿地で確認した。

ノート：林（2003）は、けやき台中央公園および有馬富士公園において本種を記録している。本調査では、南部だけでなく中部や北部にも生息していることを確認した。

Hylidae アマガエル科

Hyla japonica ニホンアマガエル

110件の観察記録により、母子、波田岩倉、紅葉とせせらぎの道を除く有馬富士、須磨田、川原、香下、山田、日出坂、虚空蔵山、母子大池、乙原、大根川、末、波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、下相野、八景、川除、小柿の19地域で生息を確認した。主に水田でみられたが、他にもため池、湿地、河川、用水路、渓流、林縁など多様な生息場所で確認した。鳴声を確認した期

間は3月下旬～10月下旬の長期に渡っていた。

ノート：湯浅（2000）は、下青野、母子、東本庄、福島、中沢谷、鈴鹿において本種を記録し、林（2003）は、藍本棚田橋、有馬富士公園、大原莊園、波豆川大磯、川除、小柿野外活動センター、下須磨田、高平、母子大池周辺の東部から南部にかけて確認している。本調査では西部にも生息していることを新たに確認した。

Ranidae アカガエル科

Rana japonica ニホンアカガエル

44件の観察記録より、水田が多い三田市中部から南部に至る有馬富士、須磨田、香下、母子大池、末、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、下相野、八景の10地域で本種を確認し、山間地が多い北部では、母子大池のみ記録した。成体は2月下旬～10月にかけてみられ、鳴声は7～8月、卵塊は3月、幼生および幼体は3月上旬～6月に観察した。ほとんどが水田や休耕田、その付近の用水路に生息していた。

ノート：林（2003）は、有馬富士公園、香下花折において本種を確認している。本調査において中南部だけでなく北部や西部にも生息していることが新たに確認された。

Rana ornativentris ヤマアカガエル

9件の観察を記録し、有馬富士、波田岩倉、香下、山田、川原、母子大池の6地域のため池や水田、渓流で2月中旬～8月にみられた。局地的に分布しており、確認個体数も1地域で1～2個体に留まり非常に少なかった。

ノート：林（2003）は、有馬富士公園において本種を確認している。本調査では中部の有馬富士の他に北部や南部にも生育していることを確認した。

Rana tagoi tagoi タゴガエル

観察は32件を記録し、須磨田、川原、山田、日出坂、虚空蔵山、母子大池、紅葉とせせらぎの道、乙原、大根川、波豆川、大谷・大川瀬の11地域の主に渓流に生息していた。山田地域以外は中部から北部に集中して分布していた。4月下旬～5月上旬の短期間に鳴声が観察され、特に、波豆川上流では5月上旬に数十個体が一斉に鳴いているのを確認しており、大規模な繁殖地であることがわかった。同地域では卵塊も確認した。しかし、その他の地域は繁殖期でも1～5個体程度の鳴声が確認できるのみであり、分布箇所は比較的多いが各地域の個体数は少なかった。

ノート：林（2003）は、母子大池周辺において本種を確認している。本調査において、北部のみならず、東部や南部にも生息し、特に北東部には大規模な繁殖地があることが明らかとなった。

Rana nigromaculata トノサマガエル

調査地全域の水田、ため池、湿地、河川、用水路などで記録した。全調査地域で生息を確認したのは本種のみであり、観察記録も最多の126件を記録した。ニホンアマガエルと同様に水田、ため池、用水路、湿地など様々な水辺環境に生息し、成体を観察した期間も3月下旬～10月下旬の長期に渡った。

ノート：湯浅（2000）は、福島、鈴鹿、中沢谷、下青野において本種を記録し、林（2003）は、有馬富士公園、大原虫尾、小柿野外活動センター、下須磨田、高平交流センター、波豆川大磯、母子大池周辺で確認している。本調査では、西部にも生息していることを新たに確認した。

Rana catesbeiana ウシガエル

83件の観察を記録し、有馬富士、波田岩倉、須磨田、川原、香下、山田、日出坂、乙原、大根川、末、波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、八景、小柿の16地域で生息を確認した。ほとんどがため池で観察されたが、河川、水田、用水路にも生息していた。3月下旬～10月下旬にかけて成体と幼生がみられ、卵塊は5月下旬～7月下旬にかけて確認した。

ノート：湯浅（2000）は、中沢谷、鈴鹿、福島、日出坂において本種を記録し、林（2003）は、有馬富士公園、大原虫尾、小柿羽束川、下須磨田、高平交流センター付近で確認している。本調査では、新たに東部と西部にも生育していることが確認された。

Rana rugosa ツチガエル

10件の観察を記録し、母子、山田、母子大池、紅葉とせせらぎの道、波豆川の5地域で5月中旬～8月上旬にかけて確認した。主に渓流でみられ、湿地や水路でも観察した。

ノート：湯浅（2000）は、鈴鹿において本種を記録し、林（2003）は、小柿羽束川、高平交流センター付近、波豆川大磯、母子大池周辺で確認している。本調査において、新たに南部にも生息していることが確認された。

Fejervarya limnocharis ヌマガエル

観察は45件を記録し、有馬富士、須磨田、川原、香下、山田、虚空蔵山、乙原、大根川、末、波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、八景、川除の15地域で確認した。多くは水田に生息していた。4月中旬～10月下旬にかけて成体がみられ、幼生は6月下旬～7月上旬にかけて観察した。

ノート：湯浅（2000）は、福島において本種を記録し、林（2003）は、有馬富士公園、大原莊園、香下花折、川除、小柿野外活動センター、下須磨田、高平、波豆川大

磯で確認している。本調査において、新たに西部での生息を確認した。

Rhacophoridae アオガエル科*Rhacophorus schlegelii* シュレーゲルアオガエル

62件の観察記録から、有馬富士、母子、須磨田、川原、香下、山田、日出坂、虚空蔵山、母子大池、乙原、大根川、末、波豆川、大谷・大川瀬、東本庄・四ツ辻、沢谷、下相野、八景、小柿の19地域で生息を確認した。多くは水田で観察し、まれに湿地や渓流でみられた。卵塊は4月下旬～8月上旬に観察した。

ノート：湯浅（2000）は、母子と下青野において本種を記録し、林（2003）は、有馬富士公園、香下花折、小柿野外活動センター、波豆川大磯、福島大池川、母子大池周辺で確認している。本調査では、新たに西部においても生息を確認した。

Rhacophorus arboreus モリアオガエル

32件の観察を記録し、有馬富士、母子、波田岩倉、川原、香下、日出坂、母子大池、乙原、大根川、末、波豆川、大谷・大川瀬の12地域で記録した。主に水深が5～30cm程度の浅いため池でみられ、水田、湿地、渓流、用水路などでも確認した。6月に成体、5月～7月にかけて卵塊および幼生を観察した。

ノート：林（2003）は、有馬富士公園、香下花折、波豆川大磯、母子大池周辺で確認している。本調査において、西部にも生息していることを確認した。

Buergeria buergeri カジカガエル

4件の観察を記録し、生息を確認した地域は紅葉とせせらぎの道、小柿の2地域のみであった。渓流および河川において6～7月に本種を記録した。紅葉とせせらぎの道では、鳴き声と成体を確認した個体はそれぞれ1個体のみであった。小柿では、10個体程度の集団で鳴いている声を確認し、成体も観察した。

ノート：湯浅（2000）は、下青野において本種を記録し、林（2003）は、小柿野外活動センターで確認している。本調査では、新たに北中部の生息地を確認した。

謝 辞

三田市経済環境部環境推進室環境政策課には、本調査および報告の機会を与えていただきました。神戸大学の武田義明様には、分布図の作成にご協力をいただきました。また、兵庫県立大学の三橋弘宗様には、資料をまとめるにあたり貴重な助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。

文 献

- 長谷川雅美 (1999) 水田耕作に依存するカエル類群集. 江崎保夫, 田中哲夫 (編), 水辺環境の保全. 朝倉書店, 東京 : 53-66p.
- 林 成多 (2003) 兵庫県三田市におけるカエル類の観察記録 (2002年). 人と自然, **14**, 99-109p.
- 兵庫県 (2009) 生物多様性ひょうご戦略. 120p.
- 兵庫県自然環境保全課 (編) (2003) 改訂・兵庫の貴重な自然. 財団法人ひょうご環境創造協会, 382p.
- 松井正文 (2002) カエルー水辺の隣人. 中央公論新社, 東京 : 194p.
- 松井正文 (2005) これから両生類学. 裳華房, 293p.
- 太田英利 (2001) 両生爬虫類の世界で起こっていること. 川道美枝子, 岩槻邦夫, 堂本暁子 (編), 移入・外来・侵入種. 築地書館, 東京 : 162-180p.

三田市 (2010) ポケット統計さんだ (平成21年度版). 三田市総務部総務室総務課, 15p.
[http://www.city.sanda.lg.jp/soumu/h20_poketto.html]

三田市生態系レッドデータブック策定委員会 (2003) 未来に伝えたい三田の自然～生態系レッドデータブック～, 三田市環境部環境課, 100p.

柄本武良・田口勇輝・大沼弘一・川上徳子・清水邦一・土井敏男・柿木俊輔・夏原由博・三橋弘宗 (2007) 兵庫県におけるオオサンショウウオの分布情報. 人と自然, **18**, 51-65p.

湯浅義明 (2000) 兵庫県の両生類目録. 兵庫陸水生物, **51・52**, 89-104p.

付 記

三田市都市整備部都市計画課 三田の都市計画 [http://www.jamgis.jp/jam_sanda/HP/planning/outline/index.html] (2010.10.18 参照)

(2010年8月2日受付)

(2010年10月15日受理)